



子供の未来応援基金

第2回未来応援ネットワーク事業

報告書

令和元年7月
子供の未来応援国民運動推進事務局

目次

子供の未来応援基金 未来応援ネットワーク事業のあゆみ	1
第2回未来応援ネットワーク事業のご紹介	
様々な学びを支援する事業	
長住団地自治会 子供たちが自由に学べる広場	3
Eince 子供応援隊 「学び」から「気づき」への発展	4
衣食住など生活の支援を行う事業	
shining 第3のおうちで「食べること」の楽しみを	5
POPOLO 支援の入り口としてのフードバンクを目指して	6
居場所の提供・相談支援を行う事業	
トイボックス 地域の「カフェ型」コミュニケーションの場	7
児童又はその保護者の就労を支援する事業	
まきばフリースクール 就労体験を将来への意欲に	8
児童養護施設等の退所者を支援する事業	
ハッピーウーマンプロジェクト 自立応援の気持ちを込めたガイドブックを	9
里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業	
大阪府里親会 里親子支援を通じて子供たちの未来を応援	10
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業	
誕生学協会 「貧困の世代間連鎖」を未然に防ぐために	11
ご寄付いただきました皆様へ	
子供の未来応援基金事業審査委員会委員長 草間 吉夫	12
子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人福祉医療機構 NPOリソースセンター	12
第2回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧	13



11月
 子供の未来応援国民運動
 一周年の集い



【事業期間】
 平成28年10月
 ～平成29年9月
 応募件数…535団体
 採択件数…86団体



【事業期間】
 平成31年4月
 ～令和2年3月
 応募件数…358団体
 採択件数…71団体

第3回未来応援
 ネットワーク事業
 支援先団体公募、
 審査、決定

平成30年度
 9～1月

財務状況（平成30年度末時点）

寄付金収入	1,074,962,367円
第1回未来応援ネットワーク事業支援金（精算額）	298,419,546円
第2回未来応援ネットワーク事業支援金（精算額※）	251,265,000円
寄付金残高	509,089,538円
（参考）第3回未来応援ネットワーク事業支援金	207,906,000円

※現在精査中のため未確定

第2回支援事業 実績

支援団体数 **79**団体
 （全国28都道府県）

支援対象者数（延べ人数）
150,266人※

支援をきっかけに連携する
 こととなった団体数
523団体※

※ 支援団体からの報告を単純集計したもの

さまざまな分野の
 事業を支援

子供の未来応援基金

未来応援ネットワーク事業のあゆみ

平成27年度

4月

子供の未来応援国民運動
発起人集会にて
子供の未来応援基金の
創設を提唱

10月

子供の未来応援基金創設



平成28年度

7～10月

第1回未来応援
ネットワーク事業
支援先団体公募、
審査、決定

平成29年度

7～1月

第2回未来応援
ネットワーク事業
支援先団体公募、
審査、決定

応募件数…352団体
採択件数…79団体
【事業期間】
平成30年4月
～平成31年3月



- 様々な学びを支援する事業：20件
- 衣食住など生活の支援を行う事業：15件
- 居場所の提供・相談支援を行う事業：14件
- 児童又はその保護者の就労を支援する事業：8件
- 児童養護施設等の退所者を支援する事業：5件
- 里親又は特別養子縁組の斡旋を
実施又は支援する事業：1件
- その他の支援：16件

様々な学びを支援する事業

学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他



- 長住団地自治会（福岡県） -

長住団地自治会は、福岡県の長住団地の入居者で構成された自治会です。

基金を活用した事業では、「子ども勉強広場」を開催。地域の子供たちに自由に勉強できる場や、手作りの食事、体験事業などを提供し、開催回数は計51回、延べ1,830人の子供たちが参加しました。

子供たちが自由に学べる広場

長住団地自治会は、福岡市にある長住団地の入居者が相互に親睦を深め、生活を改善・向上させることを目的として活動しています。

当地域の特徴として、ひとり親家庭や共働き家庭が多く、子供だけで食事をしている家庭が多いという実態があります。

そこで、子供の未来応援基金を用いた事業では、**子供たちが安心して、「勉強・遊び・おしゃべり・何もしないでいられる」安全な居場所を提供するため、「子ども勉強広場」を実施しました。**

団地の集会所3部屋を使用し、長期休みの朝開催、その他の夜開催など、1年間で計51回開催することができました。

子供たちは、持参した宿題等で自習し、分からないところをスタッフから教わったり、勉強したくないときには、読書をしたりするなど、自由な雰囲気の中で過ごしています。

また、勉強の後には大人が見守る中で楽しく遊んだり、温かい手作りの食事をみんなで食べたりすることで、コミュニケーション能力の向上にもつながっています。

参加した子供たちや保護者からは、

「勉強したら、友達と一緒に遊べるのがいい。毎日でも開いてほしい。」

「どうしても仕事で遅くなってしまう時に、家まで送っていただけるのは本当に助かります。」

などの声が寄せられました。

地域のシニアとの交流会や、夏休みのお泊り会などのイベントも子供たちから大好評です。

事業の実施に当たっては、他団体等との連携も強化しています。スクールソーシャルワーカーや民生児童委員、社会福祉協議会等の専門家や公的機関だけでなく、**「信頼できる大人が地域に存在し、愛情を持って見守っていることを体感してほしい」**との思いから、子供たちの見守り活動を実施する「団地シニアクラブ」や「団地おやじ隊」といった地域のボランティアとも協力しています。

このように、一自治会として始めた取組ですが、継続して実施することで地域と密着し、地域の広がりだけでなく、**世代間交流も広まりました。**

今後も継続して、子供たちが安心できる地域の居場所を確保していきます。





- Eince 子供応援隊（愛媛県） -

Eince（アインス）子供応援隊は、愛媛県において、地方の教育格差対策に取り組み、児童・生徒を対象に学習支援ならびに職業体験、コミュニティ事業などを提供しています。

基金を活用した事業では、学習支援2ヶ所・職業体験6プログラムを実施し、多くの子供たちが参加しました。

「学び」から「気づき」への発展

Eince 子供応援隊は、子供たちとの日々の触れ合いの中で、子供たちの抱える様々な悩みや教育格差に直面し、子供たち自身が「そこから学び取る力」・「前を向いていく力」を育む機会や居場所の必要性を感じ、自立&自律育成を目的に、平成16年7月に設立されました。

設立以降、様々な環境にいる子供たちに寄り添いながら、子供たちの生きる力と未来へ続く力を育むため、リズム学習とアクティブラーニングを融合させた学びの広場の運営、企業やNPOと連携した体験活動の実施、各専門機関とつながる相談事業を提供してきました。

子供の未来応援基金を活用した事業においては、**子供たちと同じ立場・同じ目線である大学生たちが、サポートスタッフとして子供たち1人1人に寄り添いながら、「学習支援教室とスキルアップ勉強会」と「職業体験プログラム」を実施しました。**

「職業体験プログラム」では、科学テクノロジー実験や食品サンプル体験など、様々な分野の体験プログラムを実施することで、**子供たちの「したい！なりたい！」の前向きな気持ちと、社会と関わる意識を引き出す**ことを目指しました。

子供たちは、いろいろな活動を共にすることで次第に打ち解け、個人的に抱える問題や将来への不安感や悩みを打ち明けられるようになりました。「学び」を一時的な勉学や体験だけではなく、**問題解決につながる「気づき」や「将来への目標」などに、長期的につながられるよう**図っています。

子供たちからは、

「将来どの道を進んで、どうやって生きていったらいいのか不安があった。大学生に出会えたことで、自分の未来も変えていけることがわかった。」

「化学実験や食品サンプルづくりなどで、お金をかけなくても身近なもので工夫していろいろ作りだせることを知った。それが、すごく面白かったので、将来、自分も何か創り出せる人になりたい。」

などの言葉をもらえました。

引き続き、各関係機関との連携を図ると共に学びと気づき活動について普及啓発をし、地域の方々の賛同や助力を得ながら、1人でも多くの子供たちが笑顔と自信を得られ、将来につながられるよう活動を継続していきます。



学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他

衣食住など生活の支援を行う事業



- shining (三重県) -

特定非営利活動法人shiningは、三重県において、「地域の人々のつながりを深める」という理念に基づき、子供食堂や子育て応援サイトの運営事業等を実施しています。

基金を活用した事業では、子供食堂「りんごの家」を開催し、1年間で延べ453人の親子が参加しました。

第3のおうちで「食べること」の楽しみを

shiningは、地域の人々のつながりを深め、ママが安心してくつろげ、子供たちが生き生きと出来る場所、地域の人々が気軽に交流できる「第3のおうち」を作ること为目标に、子供食堂を中核とした相談事業や子育て応援サイトの運営、子供の体験事業等を実施しています。

子供の未来応援基金の支援事業では、助けの声を上げられず孤立してしまい、「**見えない貧困**」状況にある親子を**発掘し、継続的な支援を行っていくための体制を整える**ことを目的として、子供食堂「りんごの家」を開催しました。

「りんごの家」には、親子や、子育て支援に意欲がある地域の大人たちが参加し、食事の準備や後片付けを参加者全員で協力して行っています。

時には、みんなでタケノコ堀りに行ってタケノコご飯をつくったり、お正月には餅つき大会を開催するなど、**季節を感じられるような行事も実施しました。**

また、食事づくりを楽しむとともに、地元農家から寄付していただいた新鮮な旬の食材を使った、育ち盛りの子供に適した**栄養バランスのとれたメニューを提供し、参加者へ食の大切さを伝えることにも重点を置いています。**

食事後には、参加者の希望に応じて、カウンセリングスタッフや鈴鹿市職員の方が、親向けの相談を実施したり、地元の高校生が子供たちに向けて絵本の読み聞かせをしたりするなど、交流の時間も設けました。

参加した子供たちからは、

「大勢で食べると美味しい。自分でつくったものを食べると美味しい。」

また、お母さんからは、

「家ではなかなか余裕がなく、包丁を持たせてあげることができなかったので、よい経験になりました。」

といった声が上がりました。

また、**事業を実施していく中で、子供食堂に関わってくれる地域の大人が増加したことも、成果の1つです。見守る大人が多ければ多いほど、子供たちの小さな変化や不安に気づくことができます。**

今後も地域の方々にご協力いただきながら、子供たちに支援を届けていきます。





－POPOLO（静岡県）－

特定非営利活動法人POPOLOは、静岡県において、生活に困難を抱えている人に対して、一時生活支援事業や相談事業等を行っています。

基金を活用した事業では、フードバンク事業を実施し、依頼のあった403件に対して6,107kgの食糧を届けました。また、フードバンクを入り口としたアウトリーチを行い、支援が必要な家庭を適切な機関につなぎました。

支援の入り口としてのフードバンクを目指して

POPOLOは、「すべての人が、自己決定の下、安心して暮らせる社会の実現」を目指して、一時生活支援事業や、相談事業などを行っています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、生活困窮で苦しんでいる子育て世帯に対して、フードバンクによる食の支援を行いました。

事業の実施に当たっては、NPO、ハローワーク、市役所、保育園、民生委員、地元企業など、計94団体と連携し、6,107kgの食糧を、子供のいる世帯に届けました。

また、この事業により、敷居の高い「相談窓口に行く」という行為を、フードバンクという入り口を用意し、来所する“きっかけ”や“つながり”をつくることで敷居を下げ、子供のいる家庭が困ったときに気軽に「助けて」と言える社会になることも目指しています。

特に夏休みには、「夏休み子ども応援プロジェクト」として、給食がないため子供の食事に不安を抱える世帯に食糧を提供し、併せて社会福祉協議会と連携して、支援が必要な家庭の掘り起こしを行いました。

その結果、申請があった138件のうち、38件が継続的に関わって支援をする必要がある世帯だと分かり、関係機関に情報共有をしました。

中には、昨年度事業から継続で申請をいただいた世帯から相談を受けることもあり、定期的に顔を合わせることによって、困ったときに相談しやすい関係になってきていると感じています。

食糧を受け取った方からは、

「たくさんの食糧をいただき、本当に助かります。心が温かくなり、いろいろ頑張ろうという気持ちになりました。どれも子供たちが好きなものばかりで、喜んでいました。食べ盛りの子供たちにおいしいご飯をつくりたいと思います！」

「食糧の支援も嬉しかったですが、これまで気づけなかった相談窓口につながることで、本当に感謝しています。」

との言葉が寄せられました。

食糧の確保や配布、そして適切な支援につなぐには、多様な団体と連携し、それぞれの団体が「自分事」として専門性を発揮することが必要です。

今後も連携団体との支援のネットワークをより発展させ、多くの家庭に食糧を届けることに加え、その後の継続支援につなげることができるよう取り組んでいきます。



学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他

居場所の提供・相談支援を行う事業



－ トイボックス（大阪府） －

特定非営利活動法人トイボックスは、大阪府において、「こどもとちいき」をテーマに、教育事業やまちづくり事業、商店街の活性化事業などに取り組んでいます。

基金を活用した事業では、居場所事業として、「宿題カフェ」を府内11か所で展開し、計366回実施。延べ3,837人の子供たちに「カフェ型」の居場所を提供しました。

地域の「カフェ型」コミュニケーションの場

トイボックスは、多様な特徴をもつ人たちが生き活きと活動できる社会、全ての子供が笑顔で成長できる社会の実現を目指し、公共施設の運営を通じたまちづくり事業や、商店街の活性化事業など、多岐にわたる事業を行っています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、地域コミュニティの中に子供の居場所をつくり、学習支援・相談支援・食事支援を通じて子供たちとその家族へのサポートをする事業を実施しました。

その一環として実施した「宿題カフェ」では、府内数か所において、子供たちが楽しく宿題ができる居場所を提供しました。

子供たちには、学習支援及び相談を行うスタッフがつき、コミュニケーションを取りながら支援を行います。宿題が終わった子にはジュースをサービスし、カフェ気分も演出しました。

事業を実施する中で、高学年の子供が低学年の子供に宿題を教えるなど異学年での交流が生まれました。

中でも、勉強に苦手意識を持っていた子が、低学年に勉強を教えたことで、そこからみるみる明るくなったことが印象的でした。「誰かの役に立つ」といった体験が自信になったのだと思います。

また、会場に公共施設や商店街の空き店舗を活用することで、地域ぐるみで子供たちを支援する機運を高めることも目指しています。

宿題カフェに来た子供たちからは、

「落ち着いて宿題ができる。『もう宿題は終わったよ』と話すとお母さんが褒めてくれるのが嬉しい。」

「優しく勉強を教えてくれたり、話を聞いてくれたりする人がいるので、宿題カフェに来るのが楽しみ！」

といった感想が聞けました。

本事業の実施により、地域に拠点を持つ団体や店舗などが、自身の持つ場所や時間といったスペースを、地域とその子供たちに開放していくという形の支援のあり方を地域に示すことができました。

今後も、拠点を持っている仲間を増やしながら、継続して子供たちの居場所を提供し、子供たちの生活環境の向上に寄与していきます。



児童又はその保護者の就労を支援する事業



－まきばフリースクール (宮城県)－

特定非営利活動法人まきばフリースクールは、宮城県においてフリースクールや障害者の就労支援など、多様な社会福祉事業を行っています。

基金を活用した事業では、高年齢（およそ15～18歳）の子供たち51人に、相談支援事業、居場所・体験学習支援事業、就労支援事業を提供しました。

就労体験を将来への意欲に

まきばフリースクールは、「必要があれば先に手を伸ばす」という理念のもと、フリースクールや障害福祉サービスなど、多様な支援を行ってきました。

当団体が運営する自立援助ホームやファミリーホームには、家族の支えが薄く、10代後半にして就労自立しなければならない子供たちがいます。またフリースクールにも、様々な事情で中卒・高校中退の子供が増えています。

彼らにとって就労自立は間近な問題ですが、生活や教育などのあらゆる体験不足から、就労の継続が難しい状態でもあります。

そうした背景から、子供の未来応援基金を活用した事業では、貧困状態にある、あるいはそのリスクの高い子供に対し、将来における安定した就労継続と貧困の防止を目的として、**地域の主産業である農業や、求人の多い接客業・介護業の就労体験事業を提供しました。**

農業体験の草刈りは、汗をかき、目に見える形で達成感を味わえることから、子供たちに好評でした。

また、相談支援や居場所・体験学習の提供も併せて行うことで、就労意欲や自己肯定感の向上を図りました。支援に当たっては、子供たちそれぞれの状態やニーズに応じた支援を、段階的に行いました。

たとえば、**通所が困難な場合には、自宅等への訪問相談を行ったり、就労体験時に同行して一緒にサポートしながら体験させるなど、一人ひとりに合わせた支援を提供しています。**

就労体験に参加した子供たちからは、

「以前の自分は経験がなかったから、自分の頭の中だけで実際よりどんどん不安を大きくしてしまっていたんだと分かった。体験をして、就労にチャレンジする気持ちになれた。」

「働く練習が積めて、少し自信が持てるようになったから、求職や面接を頑張ることができた。」

といった前向きな声が上がりました。

このほか、**介護職を体験した子が資格取得に向けた勉強を始めたり、農作物の出荷作業や販売接客を体験した子が地元の農業法人にパートタイム就労するなど、目に見える成果が出ています。**

当団体は、農山村地域という少子化の影響を大きく受けている地域で活動していますが、サポートを必要とする子供の数はいまだ減少していません。今後も時代やニーズの変化に対応しながら、活動を継続していきます。



学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他

児童養護施設等の退所者を支援する事業

学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他



－ハッピーウーマンプロジェクト（富山県）－

特定非営利活動法人ハッピーウーマンプロジェクトは、富山県において、女性と子供が安心して暮らせる社会を目指して、各種講座や相談支援事業等を実施しています。

基金を活用した事業では、児童養護施設において、コミュニケーション講座等の各種講座を計13回実施。また、施設を巣立つ子供たちに向けた「ひとり暮らしガイドブック」を作成しました。

自立応援の気持ちを含めたガイドブックを

ハッピーウーマンプロジェクトは、女性と子供が心身ともに健康で安心して暮らせる社会を目指して、未就学児から大人まで、年齢に合わせた各種講座や女性への相談支援事業を実施しています。

今回、子供の未来応援基金の支援を受けた事業では、県内3か所の児童養護施設で、コミュニケーション講座等のほか、社会に巣立つ子供たちを対象とした、「レッツひとり暮らし講座」を実施しました。

児童養護施設の子供たちは、中学、高校を卒業（中退）後、施設を出て一人暮らしを始めることが多いですが、コミュニケーション力の不足から、職場等の人間関係につまづいたり、金銭の問題を抱えたりすることがあります。

「レッツひとり暮らし講座」は、子供たちに卒業後の生活を想像してもらい、生活するにはどんなお金がどのくらい必要になるのか気づき心の準備を始めてもらうのがねらいです。

講座を受講した子供からは、

「お金の貸し借りはしない。節約する。自分の気持ちをしっかり伝える。とても役に立つお話をしていただきありがとうございました。楽しかったです。」

との感想をもらいました。

さらに本事業では、講座では伝えきれない知識や情報を掲載した「ひとり暮らしガイドブック」も作成しました。

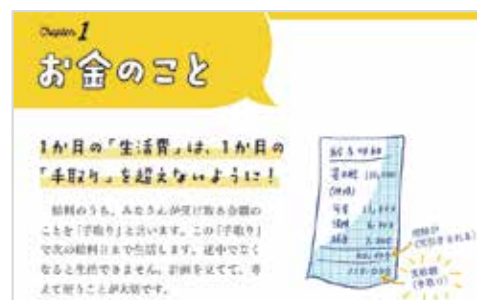
このガイドブックは、施設から社会に巣立ち、一人暮らしを始めた子供たちが困った時に使用できるよう、生活の基本をまとめたガイドブックです。

ガイドブックには、お金のこと、食事のこと、人づきあいのこと、相談機関など、幅広い情報を盛り込んでいます。

たとえば、「お金のこと」のページでは、毎月かかる生活費の例示や、「貯金をしよう」、「長期契約はよく考えて」などのお金に関する具体的な注意点、様々なカードの違いなど、生活に直結する内容を記載しています。

高校卒業とともに児童養護施設を卒業し、社会に巣立つ子供たちにとって、このガイドブックが単なるマニュアルではなく、「見守り、応援している人がいるよ」というお守りとしての存在にもなれば、という思いも込めて作成しました。

今後、このガイドブックを活用して講座を実施し、引き続き、子供たちの未来への支援を広げていきます。



(↑ 「ひとり暮らしガイドブック」抜粋)

里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業



－大阪府里親会（大阪府）－

大阪府里親会は、大阪府において、里親制度の普及啓発活動や、里親の養育技術向上のための研修会などを行っています。

基金を活用した事業では、シンポジウムや相談会等のイベントを実施して里親制度の周知を図り、5か所で延べ970人が参加しました。また、里親研修会の開催や絵本の作成等を通じて、里親子の支援を行いました。

里親子支援を通じて子供たちの未来を応援

大阪府里親会は、大阪府内の6つの里親会で構成され、里親制度の普及や里親の養育技術の向上に取り組んでいます。

現在、社会的養護を必要とする子供たちの多くは施設で生活しています。

子供の未来応援基金を活用した事業では、施設だけでなく里親による養育という選択肢も増やすため、**社会的養護の現状や里親制度について広く一般の方に知っていただき、里親の育成や養育に悩む里親家庭への支援等**を行いました。

具体的な活動としては、里親制度の普及・啓発を目的としたシンポジウムや相談会、行政職も交えて、里親子と一般の方の交流を図る里親カフェ等を実施しました。シンポジウムでは、里親の体験談の発表やグループワークなどを実施しました。

開催に当たり、関係機関と連携することにより、**里親制度の啓発から里親の登録、その後のケアといった一貫したサポートができました。**

また、里親のスキルアップ研修も実施しました。研修には専門の講師を招き、乳幼児を中心にした安全講習や実習を行い、グループ討議や情報交換を通じて養育技術の向上を図りました。

研修に参加した里親からは、

「リラックスした雰囲気の中で里親同士の悩みを共有できて良かったです。」

「研修を受講することで今後の養育に対する不安を解消することができました。」

との感想が寄せられました。

加えて、里親子関係構築の支援のため、養子縁組を題材にした絵本を作成し、里子への真実告知（生みの親ではないことを子供に伝えること）の一助となるよう会員に配布しました。

絵本を手にした里親からは、

「子供に読み聞かせをして、（絵本の登場人物のように）丁寧に向き合いながら親子関係を築いていきたいです。」

との声をいただきました。

本事業を実施して、里親同士の交流や里親制度の啓発など、関係機関との協力で多くの参加者を得ることができ、里親への関心の高さも感じられました。

また、新規里親の育成や子育て支援など、里親会の知識と経験を活かした研修事業の実施で、養育技術の向上を図ることができ、子供たちの健全な育成に繋がったと考えています。

今後も、里親子の支援を通して、子供たちの未来を応援していきます。



学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他

その他、貧困の連鎖の解消につながる事業



－ 誕生学協会（東京都） －

公益社団法人誕生学協会は、東京都に本部を置き、全国の学校で子供たちの自尊感情を高め、いのちと性を大切にする次世代の育成を目的として、独自で開発した「誕生学プログラム」の講座等を実施しています。

基金を活用した事業では、「貧困の世代間連鎖」を未然に防ぐことを目的として、予期せぬ若年妊娠を予防する「誕生学ティーンズプログラム」を全国119校、中高生約18,750人に実施しました。

「貧困の世代間連鎖」を未然に防ぐために

誕生学協会は、性と生命に関する健康教育「誕生学スクールプログラム」の授業を通して、子供たちの自尊感情を高め、いのちと性を大切にする次世代を育成することを理念として、全国の小学校から高校までの学校での授業や、教材開発等の事業を行っています。

日本における「貧困の世代間連鎖」問題は、背景に複雑な社会的要因を含みながら、親から子へ世代間で負の連鎖を産んでいます。

就労支援や生活費・教育費などの社会保障や子育てへの心のケアや人的な支援、物理的な支援にも限界はあり、画期的な解決策を見つけるのは困難です。

「貧困の世代間連鎖」を産む最初のきっかけとなり得る中高生の「予期せぬ若年妊娠」をまず予防することが、未来の貧困の連鎖を防ぐための必要不可欠な対策と考えます。

子供の未来応援基金の支援を受けた事業では、全国の中高生を対象に、**予期せぬ若年妊娠や出産を防ぎ、「良かった」で始まる妊娠を適切に迎えるためのプログラム「誕生学ティーンズプログラム」**を全国119校で無償実施しました。

プログラムでは、予期せぬ若年妊娠や中絶を防ぐだけでなく、**自分の未来や将来を見据え、自分の力を発揮できるよう、「生まれてきて良かった」と、自己肯定感を高められるような内容**を目指しました。

プログラムの実施前と実施後には、同じ質問のアンケートを実施し、意識の変化を計りました。

その結果、「自分のカラダは大切である」、「妊娠や出産をするのは大人になってからが良いと思う」、「自分の未来が楽しみである」、「自分は生まれてきてよかった」等の質問に「とても思う」と回答した割合が増加し、**子供たちの自己肯定感の向上が見られました。**

授業を実施した学校からは、

「生徒が、自分たちが大切な存在であることを改めて感じる事ができ、これから先の『性』についても真剣に考える機会になりました。」

「ストレートに『性』について学べたことはとても良かったです。また、『命』そのものについて深い学びがあったと思います。」

との評価をいただきました。

全ての子供たちの未来の貧困を防ぎ、世代間の負の連鎖をなくすために、今後も性と生命の教育「誕生学ティーンズプログラム」を進化させ、国、地方自治体、全国の学校に広報し、実施を拡大させていきます。



学び

衣食住

居場所

就労支援

児童養護施設

里親・特別養子縁組

その他

ご寄付いただきました皆様へ



子供の未来応援基金 事業審査委員会委員長 草間 吉夫

昭和41年生まれ。家庭の事情により児童福祉施設で育つ。東北福祉大学等で教鞭を執る傍ら、厚生労働省「児童福祉施設等評価基準検討委員会」委員等を務める。平成18年に高萩市長に就任し任期満了で退任。平成26年から東北福祉大学特任教授に就任。平成28年から「子供の未来応援基金事業審査委員会」委員長を務める。

2回目の支援事業を終えて

86の第1回支援団体。団体の皆様の子どもたちへの温かい想いや子どもたちの笑顔につながる基金への期待感の高まりを肌を感じながら、自信をもって選出したという自負がございます。

それから約1年が経過し、自信は確信に変わりました。2回目の支援団体の公募では、多様な観点からの貧困対策を行う団体が増え、それぞれに様々な工夫を凝らして実施されている活動が多くありました。79の団体に絞り込むことは、前回同様に委員の皆様とともに大変悩みました。

支援団体には、1年間、新たな取組や継続事業の更なる拡大を通じて、より多くの子どもたちに「笑顔」という花を咲かせ、また、それを育てようとする大人や団体、自治体、企業等との「支援の輪」

を拡げていただいています。

本報告書では、一部の取組を抜粋してご紹介しましたが、全国各地にこうした取組は確実に広がっています。基金を通じて更に「支援の輪」が拡がり、どの地域の子供たちにも「夢」が持てる環境を創っていくため、どうかご協力をお願いいたします。

子供の未来応援基金事業審査委員会 委員名簿（第2回支援決定時）

秋生修一郎	足立区政策経営部 子どもの貧困対策担当部長
有田 礼二	東京海上日動火災保険(株) 執行役員
金子 美香	清水建設(株) コーポレート企画室副室長
草間 吉夫	東北福祉大学特任教授
松村 淳子	京都府健康福祉部長
宮田千夏子	ANAホールディングス(株) コーポレートブランド・CSR推進部長
宮本みち子	放送大学副学長
室田 信一	首都大学東京 都市教養学部 准教授
本岡 卓爾	伊藤忠商事(株) 審議役 開発・調査部長

子供の未来応援国民運動推進事務局 独立行政法人 福祉医療機構 NPOリソースセンター

第2回支援団体に寄り添って

私ども独立行政法人福祉医療機構(WAM)は、2017年10月から子供の未来応援国民運動推進事務局に加わり、これまで民間団体の支援に携わってきた知見と経験を活かして支援団体に寄り添ってきました。

未来応援ネットワーク事業は、子どもたちが夢を持って成長していけるような社会を実現するために、地域において個別ニーズへの対応に力を発揮されている草の根で支援活動を行う民間団体に対して広く支援を行うこととしています。

草の根で支援活動を行う民間団体の中には、事業を開始して間もないことから事業実施に不安を抱いている団体も少なくありません。

そこでWAMでは、事業開始時期に「事業実施説明会」を開催し、経費の考え方や取扱い、また事業実施に関して広報や成果確認のポイントを紹介しています。また、支援期間中は各団体に専任の担当者を配置することで、事業計画の変更などに細やかなサポートを実施してきました。

子供の未来応援基金の支援の効果について、支援先団体に尋ねたアンケートでは、「団体や事業の信頼につながった」「社会的認知度が上がった」など、基金による支援が確実に成果につながっていることがうかがえます。

こうした事業運営の柔軟なサポートを続けることで、貴重なご寄付で成り立つ基金の効果を最大化するとともに、地域の核となる支援団体が育つことは、子供の貧困対策を進める環境整備に確実に繋がっているものと考えます。

今後も引き続き各支援団体の活動に寄り添っていきたいと考えています。

第2回未来応援ネットワーク事業 支援団体一覧

平成29年10月～11月の公募期間中に応募があった352団体のうち、子供の未来応援基金事業審査委員会の審査を経て、平成30年1月に79団体への支援が決定。

支援決定金額：266,476,000円
事業実施期間：平成30年4月～平成31年3月

北海道・東北

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
北海道	北海道 NPOサポートセンター	道内の子どもの居場所づくりを促進するための 調査・協働・基盤整備事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
青森県	はちのへ未来ネット	こどものかがやく未来のために ～つながりの場所づくり事業～	居場所の提供・相談支援を行う事業
岩手県	フードバンク岩手	フードバンク子ども支援プロジェクト	衣食住など生活の支援を行う事業
	インクルいわて	企業、大学との連携による社会体験提供と 生活課題の解決のための子ども支援の場づくり事業	衣食住など生活の支援を行う事業
宮城県	アスイク	経済的困難を抱えた子どもたちのためのフリースクール事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
	まきばフリースクール	子どもたちの貧困防止や将来における 安定した自立生活のための、就労支援等事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業
	ユースソーシャルワーク みやぎ	団体協働型ユースソーシャルワーカー育成事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	キッズドア	子どもの機会格差解決のための学習支援事業 (高校受験対策講座「タダゼミ」・大学受験対策講座「ガチゼミ」)	様々な学びを支援する事業
	ロージューベル	貧困や非行の問題を抱える少年の立ち直りと 社会復帰を支援する事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
秋田県	秋田たすけあいネット あゆむ	子どもの命をつなぐ食糧宅配と居場所づくり事業	衣食住など生活の支援を行う事業
山形県	ぷらっとほーむ	困難を抱える親子のための支援への多様な入り口づくり	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業

関東

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
栃木県	栃木県若年者支援機構	栃木県、こども食堂サポートセンターと 学習支援サポートセンター活動を通じた、県内のこども支援強化事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	とちぎボランティア ネットワーク	人口10万人以下の地方都市のモデルに。地域の総力で 子どもの貧困を撃退する、地域円卓会議の実施（大田原市）	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	上三川のいえ	今の私ができる月3万円ビジネス創発事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業
埼玉県	さいたまユース サポートネット	地域の中で孤立傾向にある生活困窮世帯の中高生などに対する 多様な連携を活用した自立支援事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
東京都	フードバンクTAMA	東京多摩地域の子どもの食支援プロジェクト推進事業	衣食住など生活の支援を行う事業
	リトルワーズ	未就学児を対象とした就学支援事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業
	くにたち地域コラボ	「わかるをふやす」学びの支援事業Ⅱ	様々な学びを支援する事業
東京都	全国子どもの貧困・ 教育支援団体協議会	教育支援団体全国ネットワーク構築・連携推進事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	青少年の居場所 Kiitos	調布市近隣の青少年の居場所事業	居場所の提供・相談支援を行う事業

	ウイズアイ	低所得の子育て家庭と虐待ハイリスク層の親の為の虐待予防事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業
	東京子ども子育て応援団 (旧：桜台子ども食堂)	桜台子ども食堂	衣食住など生活の支援を行う事業
	ハーフタイム	生きづらさを抱えた子どもたちに 家でも学校でもない第三の居場所を提供する事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
	PIECES	「10代のママと子ども」サポート事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
東京都	ドリームタウン	こどもの居場所「おうちごはん」&「おかえりごはん」による、 地域で子育てシェア事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
	チャイルドライン 支援センター	貧困問題について子どもの声から考え社会に伝えるプロジェクト	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	誕生学協会	若年出産を予防し、未来の貧困連鎖を防ぐ (学校への無償授業実施)プロジェクト	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	ユースコミュニティー	高卒認定を目指すサポート校事業	様々な学びを支援する事業
	全国フードバンク 推進協議会	フードバンク団体への組織基盤強化事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	全国てらこやネットワーク	地域の子供たちの居場所作り事業 ～地域のプラットフォーム～	居場所の提供・相談支援を行う事業
	フェアスタートサポート	関東圏全域における児童養護施設等と 地元企業とのコーディネートによる就労支援事業	児童養護施設の退所者を支援する事業
	川崎寺子屋食堂	川崎市の子どもの貧困と空腹に立ち向かう寺子屋食堂	衣食住など生活の支援を行う事業
	サードプレイス	こどもの困難に寄り添う支援&セーフティネットづくり	居場所の提供・相談支援を行う事業
神奈川県	ゆがわらっことつくる 多世代の居場所	生活困窮世帯の子どもの学習支援・居場所創出事業	様々な学びを支援する事業
	よこはまユース	高校内交流相談カフェによる高校生キャリア支援事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	セカンドハーベスト・ ジャパン	神奈川県内における子どもおよび子育て世帯への フードセーフティネット強化	衣食住など生活の支援を行う事業
	パノラマ	有給職業体験バイターン	児童又はその保護者の就労を支援する事業

中部

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
富山県	ハッピーウーマンプロジェクト	児童養護施設児童の自立支援	児童養護施設の退所者を支援する事業
長野県	NPOホットライン信州	居場所づくり信州子ども食堂ネットワーク事業の推進	衣食住など生活の支援を行う事業
	反貧困セーフティネット・アルプス	無料こどもじゅく事業（無料学習支援事業）	様々な学びを支援する事業
静岡県	サステナブルネット	持続可能な静岡県西部子ども食堂ネットワークの構築Ver2	衣食住など生活の支援を行う事業
	POPOLO	地域丸ごと子ども応援プロジェクト！	衣食住など生活の支援を行う事業
愛知県	こどもサポートネットあいち	社会的養護等退所者への居場所&自立相談事業	児童養護施設の退所者を支援する事業
	子育て支援を考える会 TOKOTOKO	乳幼児期から学童期までつながる親と子が心の貧困状態に陥らない予防的な地域の学習活動事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	楽笑	地域力の向上及び貧困状態にある子どもを対象とした総合力向上事業	様々な学びを支援する事業
	アンビシャス・ネットワーク	第二の家事業 テラ八	居場所の提供・相談支援を行う事業
	いまから	児童養護施設等の退所者を支援する事業	児童養護施設の退所者を支援する事業

近畿

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
三重県	shining	子ども食堂を基盤とした子育て応援の輪を地域に広める事業	衣食住など生活の支援を行う事業
滋賀県	Links	彦根市および近隣町における学習や食を通じた子どもの居場所づくりと子ども支援強化・環境整備事業	様々な学びを支援する事業
京都府	よのなか塾	持続可能な貧困対策事業のノウハウを提供し、活動を広めていく事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
大阪府	ハートフレンド	地域まるごと子育て包括支援拠点事業	様々な学びを支援する事業
	アートコミュニティ	輝け未来！ヒーロー研究室	様々な学びを支援する事業
	志塾フリースクールラシーナ	学力に不安のある（主に、塾等に通えない生活困窮世帯の）小中学生向け学習支援事業	様々な学びを支援する事業
	ヒューマンワークアソシエーション	「食」の支援を通じた子育て世帯の未来をつくる居場所・相談支援事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	チェンジングライフ	社会的居場所を喪失した元非行少年の夢追いサポート応援事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
	子どもデザイン教室	子ども、とりわけ親と暮らせない子どもの「自己肯定感を育てるデザイン教育」の開発・実践事業	様々な学びを支援する事業
	西淀川インターナショナルコミュニティー	外国にルーツをもつ子供への学習支援地域ネットワーク事業	様々な学びを支援する事業
大阪府里親会（旧：大阪府里親連合会）	大阪府里親支援機関事業	里親又は特別養子縁組の斡旋を実施又は支援する事業	
西成チャイルド・ケア・センター	子育て支援・家庭寄り添い応援事業	居場所の提供・相談支援を行う事業	

大阪府	ふーどばんく OSAKA	「ふーどばんく OSAKA 子ども食堂ネットワーク形成」と「おすそわけ食デリバリー」事業	衣食住など生活の支援を行う事業
	キャリアブリッジ	『定時制高校生の安定就労・社会的自立を応援する』学校・地域・民間連携事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業
	トイボックス	地域コミュニティ単位での、負の社会的相続に直面する子供たちへの学習・生活サポート拠点の展開事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
	D×P	定時制高校の高校生の「はたらく」を支援する新事業 立ち上げプロジェクト	児童又はその保護者の就労を支援する事業
兵庫県	こどもサポート財団	子ども食堂ネクストステージ ～さらに深く、さらに息長く、さらにみんなまで～	衣食住など生活の支援を行う事業
	女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	母子家庭の子どもに学びと相談支援の居場所及び体験活動等を提供する事業	居場所の提供・相談支援を行う事業
和歌山県	フードバンク和歌山	和歌山県内におけるフードバンク普及事業	衣食住など生活の支援を行う事業

中国・四国

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
広島県	食べて語ろう会	食事の提供による青少年の非行及び再非行防止事業	衣食住など生活の支援を行う事業
	学校教育開発研究所	経済的困難による課題を抱える子ども及び家族の心と学びの支援及びその効果検証	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
山口県	山口せわやきネットワーク	こども明日花プロジェクト～どんな環境に生まれ育っても、子どもたちが明日に希望を持てる社会を～	様々な学びを支援する事業
愛媛県	Eince 子供応援隊	地方における「子どもの能力育成&生きる力」基盤構築事業	様々な学びを支援する事業
	フェローシップ ステーション	子供たちに職業体験の機会を提供し夢を創る事業	児童又はその保護者の就労を支援する事業

九州・沖縄

所在地	団体名称	事業名	カテゴリ
福岡県	長住団地自治会	子ども勉強広場	様々な学びを支援する事業
	抱樸	学校、企業、地域との連携による高校進学支援、高校中退防止及び社会からの孤立を防ぐ事業	その他、貧困の連鎖の解消につながる事業
	エデュケーション エーキューブ	経済的な理由に関わらず、子ども達が気軽に利用できるeラーニングをベースとした自立型学習拠点「スタディプレイス」事業	様々な学びを支援する事業
佐賀県	ブリッジフォースマイル	佐賀県の自立支援事業・退所後支援事業の拡大継続・改善及び九州他県への自立支援事業の拡大	児童養護施設の退所者を支援する事業
宮崎県	Swing-By	学校等のケース会議を起点としたアウトリーチによる伴走型学習支援事業	様々な学びを支援する事業
	みやざき公共・協働研究会	地域力を生かした子どもの「将来の夢」を育むための支援事業	様々な学びを支援する事業
	らしくサポート	教育・生活支援、組織・地域体制の整備事業	様々な学びを支援する事業
鹿児島県	鹿児島ボランティアバンク	生活困窮世帯及びひとり親家庭の親子就・学一体支援	様々な学びを支援する事業

※団体名称については、支援決定時の名称で記載しております。



【基金についてのお問合せ先】

独立行政法人福祉医療機構



TEL:03-3438-0211

【事業全般についてのお問合せ先】

内閣府 子供の貧困対策推進室



TEL:03-6257-1438



子供の未来は日本の未来

子供の未来 応援

